

世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）

(背景) 優れた頭脳の獲得競争が世界的に激化してきている中で、我が国が科学技術水準を維持・向上させていくためには、世界中から研究者が「そこで研究したい」と集う拠点を構築し、優秀な人材の世界的な流動の「環」の中に位置づけられることが必要である。

(概要) 大学等への集中的な支援により、システム改革の導入等の自主的な取組を促し、優れた研究環境と高い研究水準を誇る「目に見える拠点」を形成する。

拠点形成に向けて求められる取組

○国際水準の運営と環境

- ・職務上使用する言語は英語を基本
- ・拠点長の強力なリーダーシップ
- ・スタッフ機能の充実等により研究者が専念できる環境 等

○中核となる研究者の物理的な集合

- 国からの予算措置額と同程度以上の研究費等のリソースの別途確保

-Science-
世界最高レベルの研究水準

-Reform-
研究組織の改革

同時達成により

トップレベル拠点を構築

-Globalization-
国際的な研究環境の実現

-Fusion-
融合領域の創出

拠点のイメージ

- ・総勢100～200人程度あるいはそれ以上(WPIフォーカスは70人～)
- ・世界トップレベルの主任研究者(PI)10～20人程度あるいはそれ以上(WPIフォーカスは7人～)
- ・研究者のうち、常に30%程度以上は外国人

支援内容

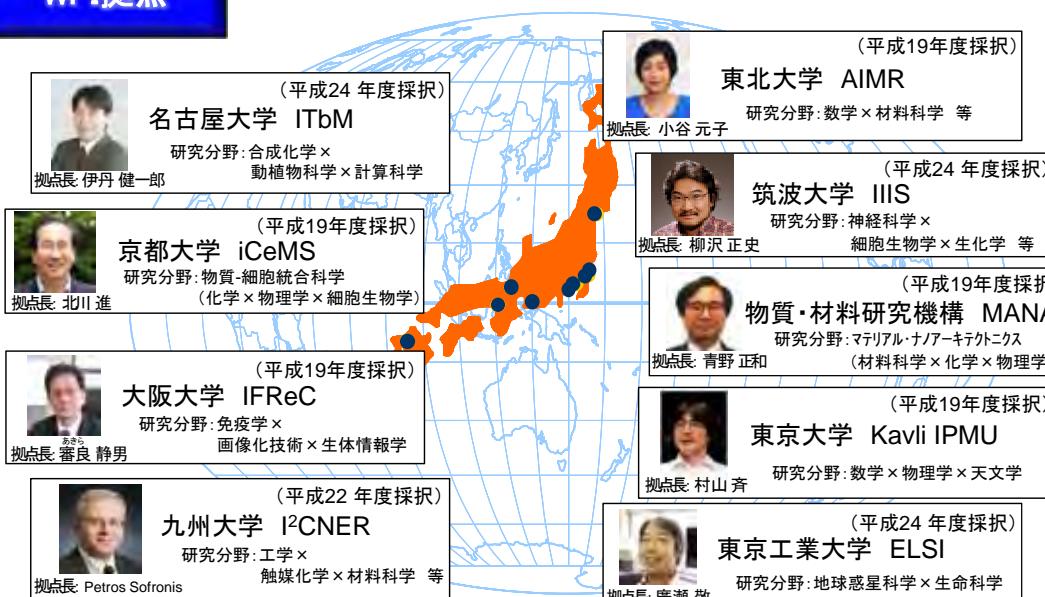
対象：基礎研究分野

期間：10～15年(平成19年度より支援開始)

支援額(1拠点あたり/年)：13～14億円程度(WPIフォーカスは～7億円程度)

フォローアップ：ノーベル賞受賞者や著名外国人有識者等による「プログラム委員会」を中心とした強力なフォローアップ体制による、丁寧な状況把握ときめ細やかな進捗管理

WPI拠点



拠点立ち上げ期にある4拠点の構築を着実に進める

- 平成24年度、先鋭な領域に焦点を絞った拠点を採択(WPIフォーカス)。
- 新たに発足したこの3拠点(筑波大学IIIS、東京工業大学ELSI、名古屋大学ITbM)および平成22年度採択の九州大学I²CNERの着実な拠点構築に向けてきめ細やかに進捗を把握・支援。
- 先鋭な領域における世界の競争に新規参入し、「国際基準で世界と戦う、世界に見える部分」の拡大を目指す。

先行5拠点の成果創出を確実に支援する

- 各拠点とも国内外より人材を獲得、平均で研究者の約40%が外国人。英語使用が名実ともに「当たり前」。
- 各拠点の若手研究者公募には世界中から応募、海外民間財団からの寄附を獲得等、「目に見える拠点」として知られる存在に。
- 世界トップの大学等と同等あるいはそれ以上の質の高い論文を輩出。

■質の高い論文の輩出割合



※機関(先行5拠点)から出た論文のうち、他の研究者から引用される回数(被引用数)が多い上位1%にランクインする論文の割合。

(トムソンロイター社調べ
(2011年10月時点))